



OncoTherapy
Science, Inc.

第12期 事業報告書

平成24年4月1日 ▶ 平成25年3月31日

【 Profile 】

当社は、がん関連遺伝子等の網羅的解析の研究成果をもとに、臨床応用を目指してがんワクチン、低分子医薬、抗体医薬、核酸医薬等の創薬研究を実施しています。そして、これら創薬研究の結果得られた医薬品候補物質を製薬企業等に提供するほか、提携先企業と共同で、また当社グループ独自で、医薬品候補物質の臨床開発を実施する等、医薬品に関する研究開発事業を行っています。一日も早く、副作用が少なく、かつ効果の高い、抗がん剤・診断薬を世に送り出すべく、全役員・従業員一同、全力を尽くす所存でございます。



OncoTherapyScience, Inc.

【 社名の由来 】

ラテン語で「オンコ」とは腫瘍(がん)を意味しており、当社の名前「オンコセラピー・サイエンス(OncoTherapyScience)」は、科学的アプローチによるエビデンスに基づいたがん治療の意味を込めて命名いたしました。

また、当社のロゴマークは、樺(イチイ)の木の実を表しております。樺は、アイヌ語で「オンコ」と言い、「神の木」を意味します。

当社は、厳しい環境の中でしっかりと根を張り、神の木として成長し続けるオンコの木の様に、敢然とがんに立ち向かうバイベンチャーであり続けたいと願っております。



【 目次 】

ごあいさつ	P1
事業展開の概況 (平成24年4月～平成25年3月)	P2
◎ OTSの研究・開発プロジェクト	P3
経営成績の推移 (平成24年4月～平成25年3月)	P6
会社概要／経営体制	P8
株式の状況	P9



拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第12期の事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。



当社は、創設時から「副作用の少なく、効果の高いがん治療薬・治療法を一日も早くがんに苦しむ患者さんに届けること、がんとの闘いに勝つこと」を企業使命として掲げ、東京大学医科学研究所と共同でほぼ全てのがんを対象にした網羅的な遺伝子発現解析等を実施し、現在までにかん治療薬開発に適した標的分子を多数同定いたしました。これらの標的分子に対し、がんワクチン医薬、低分子医薬、抗体医薬、核酸医薬の各領域における創薬研究を精力的に実施しております。さらに、国内外において、各提携先製薬企業と共同で、または当社グループ独自で複数の臨床試験を実施しております。

今後も、治療効果が高く、副作用の少ないがん治療薬・治療法を一日も早く世に送り出すことで社会に貢献するとともに、当社の企業価値を高めて株主の皆様のご期待にお応えできるよう、役員・従業員が一丸となって全力で事業を推進してまいります。



株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

敬具



平成25年6月

代表取締役社長 角田 卓也



◎ 当連結会計年度における事業の概況

当社グループにおきましては、東京大学医科学研究所との共同研究成果である「抗がん剤開発のためのがん特異的蛋白の同定とその機能解析」をもとに、がんワクチン、低分子医薬、抗体医薬、核酸医薬等の創薬研究を進展させるとともに、薬事法に基づく承認申請を目指した、膵臓がんに対する第Ⅲ相臨床試験（COMPETE-PC Study）を実施しております。その他、胃がんに対する治療用カクテルワクチンOTSGC-A24の第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験（シンガポール、日本、韓国にて実施）、がん治療用抗体医薬OTSA101の第Ⅰ相臨床試験（フランスにて実施）など当社グループ独自、及び各提携先製薬企業と共同で実施中の各臨床試験を進めております。また、早期の臨床試験開始に向けて非臨床試験を実施中、または準備中の複数の医薬品候補物質を有しております。

これらの結果、当連結会計年度における連結事業収益につきましては、提携先製薬企業からのマイルストーン及び開発協力金などの受領により、3,277百万円（前期比2,946百万円の減少）となりました。

また、医薬品候補物質等の基礎研究、創薬研究及び臨床開発の継続的な推進及び臨床開発の進展による研究開発費等の事業費用の計上により、連結営業損失は1,113百万円（前期は1,184百万円の利益）、連結経常損失は1,113百万円（前期は1,255百万円の利益）、連結当期純損失は1,103百万円（前期は726百万円の利益）となりました。

◎ OTSグループの事業領域

当社の研究開発は、平成13年4月からの東京大学医科学研究所との共同研究により出発いたしました。当該研究は、各がん種において特異的に発現する遺伝子を網羅的に解析することにより、創薬ターゲットとなるがん関連遺伝子及び遺伝子産物を単離することを目的としており、主に基礎研究領域に重点を置いたものとなっています。

その後、基礎研究の継続的な実施による進展とともに、当社グループの事業領域は、より医薬品の開発に近い創薬研究へと拡大しており、がんペプチドワクチン、低分子医薬、抗体医薬、核酸医薬の各領域において、臨床応用を目指した創薬研究を実施しております。さらに、国内外において、各提携先製薬企業と共同で、または当社グループ独自で複数の臨床試験を実施しております。

◎ 本社



◎ OTSの研究・開発プロジェクト

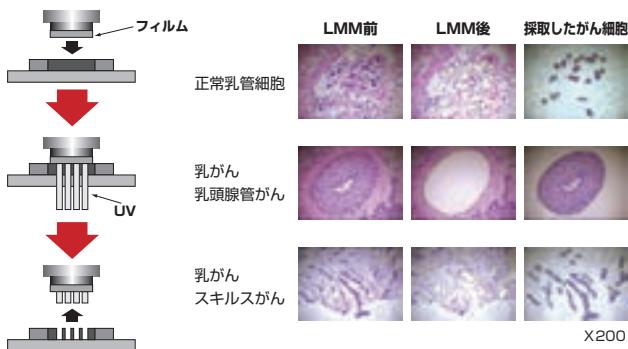
● OTSの基盤技術

抗がん剤開発のための分子標的となる遺伝子同定を可能にする基盤技術は、がん組織からがん細胞だけを高純度に単離するLaser Microbeam Microdissection(LMM)、及びcDNAマイクロアレイ(※1、※2)による網羅的な全遺伝子発現情報解析技術、及び遺伝子機能解析技術であります。

■ LMM (Laser Microbeam Microdissection)

がん組織にはがん細胞だけでなく、間質細胞や正常細胞などの非腫瘍細胞が多く混在しています。このような組織をそのまま試料として遺伝子発現解析を行っても、正確ながん細胞の遺伝子発現情報を得ることは不可能です。我々はLMMを用いてがん組織からがん細胞だけをほぼ100%の純度で回収し、採取したがん細胞を試料とし、がん細胞特異的な遺伝子発現解析を行っています。

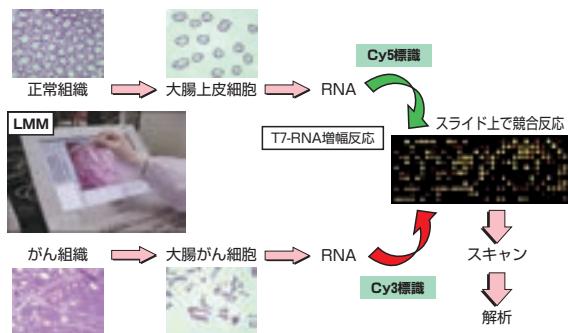
LMM (Laser Microbeam Microdissection)



■ cDNAマイクロアレイ

我々は、感度と特異性が高く、ヒトのほぼ全遺伝子の遺伝子発現を一度に解析できる、cDNAマイクロアレイシステムを構築しました。スポットするターゲット遺伝子の作製には、cDNAの3'側の繰り返し配列を含まない約200-1000塩基の配列を、遺伝子特異配列を持つプライマーを用いてPCRで増幅しました。これらのPCR産物を、特殊なスライドガラス上に高密度にスポットすることにより、遺伝子特異的で感度が高いシグナルが得られるように種々の工夫を行いました。このcDNAマイクロアレイシステムとLMMを組み合わせることにより、精度・信頼性ともに非常に高い遺伝子発現解析を実現しました。

cDNAマイクロアレイによる網羅的遺伝子発現解析



■ 標的遺伝子の同定

cDNAマイクロアレイとLMMを用いた遺伝子発現解析により、がんが高発現し、正常臓器のうち生命維持に重要な臓器での発現が極めて低い遺伝子群を同定しました。これらの遺伝子の中には、結果的にがん細胞で発現が高くなっているような遺伝子と、その遺伝子の高発現ががん化に必要とされる遺伝子の、2種類が考えられます。そこで、遺伝子発現情報で選ばれた候補遺伝子について、その働きががん細胞の増殖や生存に重要な役割を担っているかどうか、RNA（※1）干渉法という技術を用いて解析を行っています。RNA干渉法を用いた遺伝子機能阻害実験により、その働きを特異的に阻害した時にがん細胞の増殖が阻害される、あるいはがん細胞が死ぬような遺伝子を創薬研究の対象としています。つまり

- ・がん細胞で高発現している
- ・正常臓器での発現は極めて低い
- ・がん細胞の増殖または生存に必須である

という、3つの基準を満たす分子を、OTSの基盤技術を用いて絞り込むことにより、新しい分子標的治療薬開発のための独自の標的遺伝子の同定を行っています。

■ 当連結会計年度における研究開発の状況

当社グループは、元東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター長（現、シカゴ大学教授）中村祐輔教授と共同で、ほぼ全てのがんを対象とした網羅的な遺伝子発現解析等を実施し、既に多くのがん治療薬開発に適した標的分子を同定しております。また、それらの標的に対し、がんペプチドワクチン、低分子医薬、抗体医薬、核酸医薬（siRNA医薬等）の、各領域における創薬研究を積極的に展開し、これら創薬研究の成果を基にした臨床試験を実施中または準備中の医薬品候補物質を複数有しております。

● 基礎研究領域

創薬ターゲットの特定等を行う基礎研究領域においては、ヒト全遺伝子の遺伝子発現パターンを網羅的に検索できるcDNAマイクロアレイのシステムにより大腸がん、胃がん、肝臓がん、非小細胞肺がん、小細胞肺がん、食道がん、前立腺がん、膵臓がん、乳がん、腎臓がん、膀胱がん及び軟部肉腫等について発現解析が終了しております。これらの発現解析情報からがんで発現が高く正常臓器では発現がほとんどない遺伝子を選択し、さらに機能解析により、がん細胞の生存に必須な多数の遺伝子を分子標的治療薬の標的として同定しております。

● 創薬研究領域

医薬品候補物質の同定及び最適化を行う創薬研究領域においては、医

薬品の用途毎に、より製品に近い研究を積極的に展開しております。

がんペプチドワクチンにつきましては、これまでに日本人及び欧米人に多く見られるHLA-A*24:02及びA*02:01を中心に、大腸がん、胃がん、肺がん、膀胱がん、腎臓がん、膵臓がん、乳がんおよび肝がんなどを標的とした計42遺伝子を対象としたペプチド（※3）ワクチンを既に同定しておりますが、それら以外にもA*11:01, A*33:03, A*01:01及びA*03:01など、様々なHLAに対応したより多くのエピトープペプチドのスクリーニングを実施しております。さらに、塩野義製薬株式会社と、ペプチドワクチンの迅速かつ確実な創薬化を目指した共同研究を実施しております。

なお、当社研究開発本部研究部ワクチングループにおきまして、平成24年8月にワクチン療法を受けた患者さんの生体内における免疫状態を解析する、特異的CTL解析試験の受託業務におきまして、顧客満足の向上と品質の維持・向上を図るため、品質マネジメントシステムの国際規格である「ISO9001:2008」の認証を取得いたしました。

低分子医薬につきましては、6種のがん特異的タンパク質を標的とする創薬研究を進めております。そのうち2種のリン酸化酵素に関して、これまでに得た高活性化化合物に基づきリード最適化作業を進め、in vivo（※4）での薬効試験を実施中です。その結果、複数の化合物で高い腫瘍増殖抑制効果を確認しております。薬効試験で有望な結果を得た化合物については、より詳細な薬理・薬物動態・毒性試験を進めるとともに、1種のリン酸化酵素については早期に臨床試験を開始するために必要な非臨床試験を実施中です。さらに、別の1種の標的酵素タンパク質に関して、これまでの構造活性相関研究による新規化合物合成の結果得られた複数の高活性化化合物に基づきリード最適化作業を進めるとともに、in vivoでの薬効試験を実施中です。また、さらに別の3種の標的酵素タンパク質に関して、大規模化合物ライブラリのスクリーニングから得た高活性化化合物骨格につき、リード化合物獲得に向けた新規化合物合成と構造活性相関研究を進めるとともに、in vivoでの薬効試験を開始しました。

抗体医薬につきましては、3分子に絞り込んだ治療標的となるがん特異的抗原について、マウスモノクローナル抗体ならびにキメラ抗体のがん治療用抗体としての評価を行っております。1標的については、フランスで試験を実施しております。（詳細は、以下、〈医薬開発領域〉記載の「フランス現地子会社（OTS-France）で開発中のがん治療用抗体医薬（OTSA101）については」をご覧ください。）残りの2標的については、放射性同位体で標識した抗体を担がんマウスに投与することで、高い治療効果が得られることが判明しております。これらの抗体については臨床開発を視野に入れた抗腫瘍効果の検討および安全性の評価を進めております。

核酸医薬につきましては、高い効果が期待でき、かつ将来的に幅広いがん種への応用が期待できる開発候補として4分子を抽出し、なかでも特に効果の高い1分子に関して、in vivoでの抗腫瘍効果の検討を進めております。現在、新規ドラッグ・デリバリー・システムの探索に継続して取り組んでおります。

このように、独創的な分子標的治療薬の創製を目指した創薬研究を、多岐にわたり展開しております。

● 医薬開発領域

医薬開発領域においては、当社グループ独自で、ならびに複数の製薬企業との提携による開発を、それぞれ進めております。

当社が権利を有するがんペプチド療法剤CO1の承認申請を目指した膵臓がんに対する第Ⅲ相臨床試験（COMPETE-PC Study）につきましては、プロトコルの規定どおり平成24年12月に、第三者機関である効果安全性評価委員会が実施した第2回中間解析（目的：ワクチンによる細胞傷害性T細胞の誘導能の確認）が実施され、あらかじめ定められた全ての基準を満たしたため、試験の継続及び全施設のオープンを勧告するとのご見解をいただき、参加予定であった全医療機関においての試験が開始され、順調に症例登録が進んでおります。このCOMPETE-PC Studyは、膵臓がんの高い抗腫瘍効果が期待される「オンコアンチゲン（※5）」を含む複数のペプチドを含有したカクテルワクチンを用いた臨床試験（治験）です。

シンガポールのNUH（National University Hospital）にて第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験を実施中の胃がんに対するワクチンOTSGC-A24は、新たに日本及び韓国において、各1施設が参加して試験を継続しております。

フランス現地子会社（OTS-France）で開発中のがん治療用抗体医薬（OTSA101）については、フランス・リヨンにあるレオンベラルセンター（Centre Léon Bérard; CLB）などにおいて、Jean-Yves Blay教授（肉腫治療の世界的権威、欧州がん研究・治療機構（EORTC）会長）の指揮のもと第Ⅰ相臨床試験（治験）が施行されています。なお、OTSA101については、欧州委員会（European Commission）ならびに米国食品医薬品局（FDA）のOffice of Orphan Products Development（OOPD）により、それぞれ軟部肉腫に対するオーファンドラッグ（希少疾病用医薬品）として指定されております。

扶桑薬品工業株式会社ならびに大塚製薬株式会社と提携しております新生血管阻害作用を期待したがん治療用ワクチンOTS102（エルパモチド;Elpamotide）は、胆道がんを対象とした第Ⅱ相臨床試験が終了し、データ解析を実施しております。

大塚製薬株式会社と提携しております膵臓がんに対するペプチドワクチンの開発については、がん治療用ワクチンOCV-101の第Ⅱ相臨床

試験を実施しており、大腸がんペプチドワクチンについては、大塚製薬株式会社にて第Ⅰ相臨床試験を実施しております。

塩野義製薬株式会社と提携しております「オンコアンチゲン」由来のペプチドワクチンの開発については、まず、膀胱がんを対象とした複数のペプチドワクチンを用いたがん治療用ワクチン製剤（S-288310）で、国内において第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験を、アジアにおいて第Ⅰ相臨床試験を、それぞれ塩野義製薬株式会社により実施中です。また、食道がんを対象とした複数のペプチドワクチンを用いたがん治療用ワクチン製剤（S-488410）で、国内において第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験を、頭頸部がんを対象とした複数のペプチドワクチンを用いたがん治療用ワクチン製剤（S-488210）で、欧州において第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験を、それぞれ塩野義製薬株式会社が実施中です。さらに、加齢黄斑変性症治療用ペプチドワクチン（S-646240）につきましても、塩野義製薬株式会社が国内において第Ⅱa相臨床試験を実施しております。

小野薬品工業株式会社と提携しております「オンコアンチゲン」由来のペプチドワクチン（ON0-7268MX1）については、小野薬品工業株式会社が肝細胞がんを対象とした第Ⅰ相臨床試験を実施中です。

【用語解説】

（※1）mRNA、RNA、cDNA

RNAはリボ核酸、mRNAはRNAのうち、メッセンジャーすなわち「伝令」の役割をするものであります。人間の体は約60兆個の細胞によって作られていますが、体の構造や動きはおもにタンパク質によって決まっております。そのタンパク質の設計図は遺伝子であり、そして、遺伝子の本体はDNAであります。このDNAは細胞の核の中にある染色体に存在しておりますが、タンパク質は設計図であるDNAから直接作られるのではなく、一旦、DNAからRNAが作られ、そのRNAが翻訳されてタンパク質となります。この一旦作られるRNAを「伝令」すなわちメッセンジャーRNA（mRNA）といいます。つまり、遺伝子情報の流れはDNA→mRNA→タンパク質というようになっております。cDNAは、mRNAから逆転写酵素を用いた逆転写反応によって合成されたDNAで、イントロンを含まない状態の遺伝子（塩基配列）を知ることができることから、遺伝子のクローニングに広く利用されております。

（※2）マイクロアレイ

小さな基盤上に非常に高密度にDNAを配置し、それらを手がかりに大量の遺伝子情報を獲得することを目的として開発されたシステム。現在、遺伝子発現情報の解析において有用なものであると考えられております。

（※3）ペプチド

タンパク質又はタンパク質の断片のこと。

（※4）in vivo

in vitroとは対比的に用いられ「体の中で」を意味する医学・化学用語です。一般に生体内(主に実験動物)での実験的検証を意味します。

（※5）オンコアンチゲン

がん細胞に特異的に発現し、増殖能などが細胞に必須の機能を有する一方、正常細胞には極めて発現の低い分子で、細胞傷害性T細胞から認識される抗原性を持った腫瘍特異的な標的分子を指します。

■ 経営成績の推移 (連結)

連結貸借対照表 (要旨)

(単位: 千円)

科 目	当連結会計年度	前連結会計年度
	平成25年3月31日現在	平成24年3月31日現在
<資産の部>		
流動資産	11,062,680	12,090,160
固定資産	480,815	628,552
有形固定資産	305,556	358,146
無形固定資産	109,443	161,151
投資その他の資産	65,815	109,255
資産合計	11,543,496	12,718,713
<負債の部>		
流動負債	1,002,075	1,223,392
固定負債	183,699	206,946
負債合計	1,185,775	1,430,339
<純資産の部>		
株主資本	9,387,188	10,463,098
資本金	3,573,967	3,560,320
資本剰余金	6,539,189	6,525,542
利益剰余金	△725,968	377,234
その他の包括利益累計額	△637	4,951
為替換算調整勘定	△637	4,951
新株予約権	884,519	708,123
少数株主持分	86,650	112,200
純資産合計	10,357,720	11,288,373
負債純資産合計	11,543,496	12,718,713

連結損益計算書 (要旨)

(単位: 千円)

科 目	当連結会計年度	前連結会計年度
	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
事業収益	3,277,411	6,223,947
事業費用	4,391,164	5,039,810
研究開発費	4,122,828	4,715,369
販売費及び一般管理費	268,335	324,441
営業利益又は営業損失(△)	△1,113,753	1,184,137
営業外収益	4,625	71,765
営業外費用	4,869	35
経常利益又は経常損失(△)	△1,113,997	1,255,867
特別利益	4,398	21,121
特別損失	19,825	1,715
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△1,129,424	1,275,272
法人税、住民税及び事業税	4,500	500,367
法人税等調整額	△5,171	△11,029
少数株主損益調整前当期純利益又は 少数株主損益調整前当期純損失(△)	△1,128,753	785,935
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△25,550	58,973
当期純利益又は当期純損失(△)	△1,103,203	726,961

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位: 千円)

科 目	当連結会計年度	前連結会計年度
	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△455,654	△91,325
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,851	3,440,832
財務活動によるキャッシュ・フロー	24,606	25,767
現金及び現金同等物に係る換算差額	419	△274
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	△440,480	3,374,999
現金及び現金同等物の期首残高	8,937,546	5,562,546
現金及び現金同等物の期末残高	8,497,065	8,937,546

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

(単位: 千円)

	株 主 資 本				その他の包括 利益累計額 為替換算調整勘定	新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計				
平成24年4月1日残高	3,560,320	6,525,542	377,234	10,463,098	4,951	708,123	112,200	11,288,373
当連結会計年度中の変動額								
新株の発行	13,646	13,646		27,292				27,292
当期純損失			△1,103,203	△1,103,203				△1,103,203
株主資本以外の項目の 当連結会計年度中の変動額 (純額)				—	△5,589	176,396	△25,550	145,256
当連結会計年度中の変動額合計	13,646	13,646	△1,103,203	△1,075,910	△5,589	176,396	△25,550	△930,653
平成25年3月31日残高	3,573,967	6,539,189	△725,968	9,387,188	△637	884,519	86,650	10,357,720

■ 経営成績の推移 (個別)

貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

科 目	当事業年度	前事業年度
	平成25年3月31日現在	平成24年3月31日現在
<資産の部>		
流動資産	10,940,760	11,900,390
固定資産	796,099	921,940
有形固定資産	292,809	335,967
無形固定資産	109,443	161,151
投資その他の資産	393,846	424,822
資産合計	11,736,859	12,822,331
<負債の部>		
流動負債	997,757	1,213,435
固定負債	183,699	206,946
負債合計	1,181,456	1,420,382
<純資産の部>		
株主資本	9,670,883	10,693,826
資本金	3,573,967	3,560,320
資本剰余金	6,539,189	6,525,542
利益剰余金	△442,273	607,962
新株予約権	884,519	708,123
純資産合計	10,555,403	11,401,949
負債純資産合計	11,736,859	12,822,331

損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

科 目	当事業年度	前事業年度
	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
事業収益	3,277,411	6,062,471
事業費用	4,327,536	4,913,256
研究開発費	4,083,874	4,595,075
販売費及び一般管理費	243,661	318,181
営業利益又は営業損失(△)	△1,050,125	1,149,214
営業外収益	3,716	65,461
営業外費用	4,879	—
経常利益又は経常損失(△)	△1,051,288	1,214,675
特別利益	19,398	21,121
特別損失	19,307	1,605
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	△1,051,197	1,234,191
法人税、住民税及び事業税	4,210	500,077
法人税等調整額	△5,171	△11,029
当期純利益又は当期純損失(△)	△1,050,235	745,143

株主資本等変動計算書

当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

(単位：千円)

	株 主 資 本						新株予約権	純資産合計
	資 本 金	資本剰余金 資本準備金	利益剰余金			株主資本 合計		
			その他利益剰余金		利益剰余金 合計			
			圧縮記帳積立金	繰越利益剰余金				
平成24年4月1日残高	3,560,320	6,525,542	18,772	589,189	607,962	10,693,826	708,123	11,401,949
当事業年度中の変動額								
新株の発行	13,646	13,646				27,292		27,292
当期純損失				△1,050,235	△1,050,235	△1,050,235		△1,050,235
圧縮記帳積立金の取崩し			△5,239	5,239	—	—		—
株主資本以外の項目の 当事業年度中の変動額 (純額)							176,396	176,396
当事業年度中の変動額合計	13,646	13,646	△5,239	△1,044,996	△1,050,235	△1,022,942	176,396	△846,546
平成25年3月31日残高	3,573,967	6,539,189	13,532	△455,806	△442,273	9,670,883	884,519	10,555,403

■ 会社概要 / 経営体制

■ 会社概要 (平成25年3月31日現在)

社名 オンコセラピー・サイエンス株式会社 (通称 OTS)
設立 平成13年4月
資本金 35億73百万円
代表者 代表取締役社長 角田 卓也
証券コード 4564
本社 〒213-0012
神奈川県川崎市高津区坂戸3-2-1
電話 044-820-8251 FAX 044-820-8260
従業員数 85名 (連結)
取引銀行 三井住友信託銀行株式会社
株式会社三菱東京UFJ銀行
株式会社三井住友銀行
事業内容 がん関連遺伝子及びその遺伝子産物に関する情報
ならびに創薬候補物質の提供

■ 経営体制 (平成25年6月27日現在)

代表取締役社長 角田 卓也
取締役 山本 和男
取締役 (社外取締役) 片桐 豊雅
監査役 中鶴 修一
監査役 (社外監査役) 高木美也子
監査役 (社外監査役) 小峰 雄一

■ ホームページのご紹介

最新のニュースリリースやIR資料などを掲載しております。
ぜひご覧ください。

<http://www.oncotherapy.co.jp/>



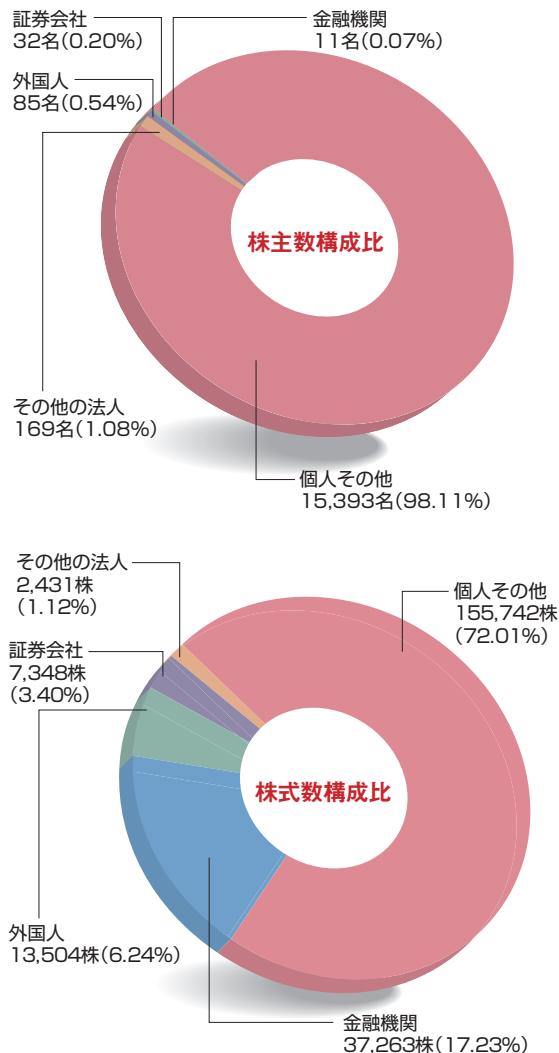
株式の状況

発行可能株式総数 770,000株
 発行済株式の総数 216,288株
 株主数 15,690名
 大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
中村 祐輔	25,022	11.56
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	18,150	8.39
中鶴 修一	11,700	5.40
古川 洋一	10,500	4.85
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	10,039	4.64
荒川 博文	5,000	2.31
日本証券金融株式会社	4,603	2.12
江見 充	2,246	1.03
MSIP CLIENT SECURITIES	2,154	0.99
田中 大貴	2,025	0.93

(注) 敬称は省略させていただきます。

株式分布状況





株式事務のご案内

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 定時株主総会 毎年3月31日

期末配当金 毎年3月31日

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人及び 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063

東京都杉並区和泉二丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-782-031

(インターネット) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>
(ホームページURL)

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用していなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公告の方法 当社のホームページに掲載する。

<<http://www.oncotherapy.co.jp/>>

●本報告書に関するお問い合わせ先

オンコセラピー・サイエンス株式会社 管理本部

電話：044-820-8251